

農業体験

農業体験 さつまいもの植え付け 平成23年6月4日

場 所 三木市細川町みずほ協同農園

参加者 38名

(大人18名、子ども20名)



みずほ農園の説明



コープのお店からでる、食物くずなどから土をつくっています



コープ土づくりセンターの内部



大量の堆肥があって、びっくりします



それでは、サツマイモの苗を植えてみよう



1家族、4~5本の苗を植えました



畝つくり挑戦です



ピオトープで生きもの探しです



小松菜を収穫しました



初夏の一日、楽しかった農業体験です

収穫体験 平成23年10月22日

場 所 三木市細川町みずほ協同農園

参加者 37名

(大人19名、子ども18名)



係の人に取り入れの仕方を教えてください



つるがすごく繁っています



サツマイモ発見



4本ほどの苗から、とてもたくさんのサツマイモがとれました



大豊作です



農場の近くには牛もいました



小松菜の取り入れです



包装機の使い方を教えてもらいました



お店にできるようなパックになりました

委員の感想

稲本 順孝

長期にわたり推進会議の一員として、さまざまな課題に取り組む事が出来たことに心より感謝を申し上げます。

私事、会社の経営上の都合により今期につきましては、ほとんど出席する事が出来ずに、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを心苦しく思っております。

尚、全体的な感想といたしましては、自分自身の不勉強もあるのですが、何か違和感を取り除くことができずに参加していたように思います。

あらゆる環境問題につきましては、今後とも永遠のテーマとして推進活動を継続していただきますようお願いいたします。

岩野 順子

昔、芦屋の浜で泳ぎ、魚をとって食べた経験があります。埋立でその浜がなくなり、これから海が、芦屋がどう変わって行くのか心配していました。でも埋立が進んでまた海浜ができました。どうなって行くのかと思っていたところ、推進会議の活動で、浜の自然観察に取り組み、少しずつ

つ生きものが住みついていっていることがわかり。うれしく思いました。

人間が造った自然ではありますが、生きものたちが暮らし、自然になっています。そのことがわかり、有意義な2年間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

上野 文雄

海辺やビオトープの生きもの探しは自然学習として子どもたちは得る物が大きかったと思いました。生活環境を守る事が芦屋のまちづくりに必要なことであり、親子のふれあいが持てる場を続けて行くことを望みます。「芦屋の環境づくり」

は六甲山や芦屋浜の自然の風景を残していくことではないかと思いました。

私たちに求められていることは、毎日の生活でできる範囲で自然と共生することを実行していくことではないかと知らされました。

往田 純子

潮芦屋ビーチの生き物観察会では、想像以上の多種多様な生物の生息状態を実際に目の前で見る事が出来、このような機会に参加できたこと感謝しています。

同時に、最初はカニをつまむことが出来ない

子供も終わる頃にはすっかり慣れて、うれしそうにカニをつまんで見せてくれました。そんな様子を見ていると微笑ましく、子供の順応の速いことに驚き、図鑑やネットより自身の体で体験することがどんなに大切なことであるかと教えられた

ような気がします。

季節毎の生き物観察会やさつまいもの植え付け、収穫の農業体験会などには多くの子供や父母が参加しており、自然への思いや環境への興味、関心が高いことが分かります。

推進会議の中では、観察会などの活動を通じ

片山 憲子

商工会役員から「環境づくり推進会議」委員に代表でなっただけと言われて、いざ参加してみると、何のことかわからずドキドキしながら皆さんの話されることに耳をそばだてて聞いていました。そして、皆さん大変に勉強されていて、仲ノ池のこと、鳥のこと、魚のことなど、私が見逃していることを大事に話されていて感心してしまいました。仕事とかで欠席することもあったが、少しこの会議で何をするかがわかりだした頃に体調を崩して、約1年間休んでしまいました。秋にやっ

北中 清史

私は委員を委嘱されて、第2次芦屋市環境計画の基本方針【7】市民との参画と協働の推進を勤めるのがこの会議の大きな役割であると認識し、委員をさせていただきました。第6期は『潮芦屋地区』をフィールドに、多くの市民に都市部にある人工造成ではあるが、自然豊かな場へと変化しつつある場所で、自然の大切さに気づき、環境への関心を持ってもらうことで行動し

栗本 光生

2年間の推進会議活動は潮芦屋ビーチ周辺の自然を観察する事を目的に、野外活動としては「磯の生き物を探そうin潮芦屋ビーチ」と「総合公園ビオトープでの生き物観察会」を、季節を変えて4回開催いたしました。保護者様の協力を

て環境について少しでも学んでほしいと活動の充実と継続が重要であると度々意見が出ていますが、その思いは更に、強くなりました。

今後も体験型の活動が企画され、実施されることを願っています。

とビオトープのところで虫や魚の観察会に行かされてもらって、子どもたちがいきいきと目を輝かせて虫を探っていて、また付き添いできていたお父さんたちも童心に帰って、目をキラキラさせて一緒にやってる姿にこちらがうれしくなってきました。結局2年間満足にお役にたてなかったのが申し訳ない気持ちになりました。少しの回数ですが参加させてもらって、すぐ結果の出る仕事ではなく、地道にやり続けたいいけないと思いました。また、街を見る目が少し変わりました。

ました。計画したビオトープでの生き物探し・磯辺の生き物探し・公園での虫探しなどで、多くの市民の参加により、自然環境に関心をもつていただき、特に、環境の未来を担う多くの子どもたちの生き活きとした活動に明るい未来を見ることができました。今後も、このように多くの市民が環境学習できるフィールドスタディーを継続して実施していくことが必要であると思います。

頂き参加児童達の生き生きした目の輝きが印象に残っております。未来を引き継ぐ子供達が座学と並行して野外で自然に直に触れる事により生き物の命の大切さ、自然を保つことの重要性を学んでもらい、ビーチで昔日参加した体験が大人になっ

た時に自然保護に対する認識、行動の一環として

もらえる礎の一助になれば幸いです。

中田 伊都子

当初、環境づくり推進会議とは、どのように環境をよくするのかを考える会と思い、専門家でもないのに大丈夫かと不安に思いました。

実際の活動は、「市民に市内の環境を知ってもらおう。特に子どもたちに自然環境に触れ合う機会を設け、興味を持ってもらう」ということがメインになりました。

鳩岡 圭二

人事異動に伴い事業者委員として期中から参加させていただきましたが、委員皆さんの環境問題に対する意識の高さや日常の活動ぶりに大変、刺激を受けました。コープこうべは今年2011年に創立90周年を迎え、長年組合員と一緒に環境

いろいろな催しで、じっくり海辺やビオトープ周辺の生き物を観察でき、私もかつて培った虫取り網の妙技を披露するなど、楽しんで活動できました。

今後この活動で自然大好きキッズが増えて、真剣に環境問題を考える子どもが1人でも増えてくれたらうれしいと思います。

古市 景一

今回は、私が以前から取り組みたいと思っており、個人的にも調査を手がけていた「南芦屋浜の海の生き物」を中心とした「調査活動がメインテーマに取り上げられたことで、とてもうれしく、またやりがいのある2年間でした。実際に本格的に取り組んでみて、やはり素晴らしい内容の活動でしたし、それなりの成果もあげることができたと思います。南芦屋浜は予想したとおり、人工的な海岸でありながら、「海の生き物」の新しい住み処としての環境を大きく提供しており、ここが多くの魚類をはじめとする稚魚や幼魚の生産地としての役割を果たしている事がある程度明らかになりました。それと関連して2011年10月30日の刺し網による沖合いの魚類調査もとても大きな興味を惹かれました。これらを土台にまた次年次に引き継がれさらに深い

問題に取り組んでまいりました。活動で特に大切にしてきたことは「くらしの中で取り組む環境活動」です。これからも行政、市民(組合員)の皆さんと力を合わせて、「くらしの中からSTOP温暖化!!」に取り組んでまいりたいと思います。

取組がなされることを願っています。

メインテーマ以外に取り組まれたコープこうべの「みずほ協同農園」での農業体験も、とても貴重な取組だったと思います。近年、「土いじり」をする機会がほとんどない中で、農場でのサツマイモ栽培は、生産という体験ができたことはとてもよかったと思います。とりわけ子どもたちがこの貴重な体験をおとして、私たちの食物が植物を育てる生産を学んだことはとても素晴らしいことだったと思います。コープこうべさんの店が出た廃棄物が見事に豊かな堆肥にリサイクルされ、サツマイモや多くの野菜の育ちにも役立っているのにも感心させられました。この期間を振り返って多くの学びが得られましたし、体験ができ、とてもよかったと思っています。

◆ 第6期芦屋市環境づくり推進会議 名簿 (H21.12.1~H23.11.30)

氏名	団体名等
稲本 順孝	日本ボーイスカウト兵庫連盟芦屋地区委員長
岩野 順子	市民公募委員
上野 文雄	市民公募委員
往田 純子	市民公募委員(副会長)
片山 憲子	芦屋市商工会女性部幹事
北中 清史	芦屋市子ども会連絡協議会常任理事
栗本 光生	市民公募委員
長井 彦一郎	芦屋川ロータリークラブ 環境問題特別委員会副委員長(会長)
中田 伊都子	芦屋市コミュニティースクール連絡協議会
野矢 裕子	市民公募委員(~ H22.9.14)
古市 景一	自然環境等専門的知識を有する者
水島 裕二	コープこうべ(~ H22.9.30)
鳩岡 圭二	コープこうべ(H22.10.1 ~)
谷崎 明日出	都市環境部長(~ H23.3.31)
北田 恵三	都市環境部長(H23.4.1 ~)
上月 敏子	教育委員会学校教育部長(~ H23.3.31)
丹下 秀夫	教育委員会学校教育部長(H23.4.1 ~)

◆ 第6期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

日時		日時	
H21.12.21	第1回	H23.1.28	第11回 (冬鳥観察会)
H22.2.1	第2回	H23.3.29	第12回
H22.3.23	第3回 (芦屋川~総合公園への現地確認)	H23.4.25	第13回
H22.4.27	第4回	H23.5.21	第14回 (潮芦屋ビーチ生きもの観察会)
H22.5.29	第5回 (潮芦屋ビーチ生きもの観察会)	H23.6.4	第15回 (農業体験・自然体験)
H22.6.25	第6回	H23.8.25	第16回
H22.7.30	第7回 (ビオトープ観察と現地確認)	H23.9.17	第17回 (総合公園いきもの観察会)
H22.9.3	第8回	H23.10.22	第18回 (農業体験・自然体験)
H22.10.2	第9回 (総合公園ビオトープ観察会)	H23.10.30	第19回 (潮芦屋うみべフェスタ参加)
H22.11.22	第10回	H23.11.11	第20回



あとがき

今回観察会の場となったのは、海を埋め立てて、人間の手によって造られた場所でした。最初は、おそらく生物はなにも生息していなかった事でしょう。それから十数年の歳月が経ちました。今では人工的に植えられた植物は大きく成長し、かたや人間の手で植えられていない植物までもが生育し、その植物を求める動物が由来し共存しています。

でも一体どんな種類の生物が育成し、どんな物を食しているのかが分かりませんでした。しかし、今回の観察会を通して多くの自然体系を知ることができました。

磯辺では貝やカニが生活し、陸上ではバッタやトンボなどが草むらを棲み家にし、空では野鳥が餌を求め飛び交っています。

この観察会に参加していただいた大人子供を含め一人一人が、自然の役割について共に体験する事により、自然のサイクルや生命力を共感し、環境問題について考える機会となりました。

今の世の中、教科書や図鑑で学ぶことが多くなってきていますが、実際に五感を使って体験することにより、想像でしかなかった物事を実際に感じる事ができました。そしてこの体験こそが身近に暮らしている私たちにとって、とても大事なことではないでしょうか。

最後になりますが、私たちはこの観察会を通じて共感し、自然から多くの生態を知ることができました。これは参加した皆さんと自然に対する志が同じだということだと思います。この仲間を増やしていくことこそが未来に繋がる大切なことではないでしょうか。

私たち委員は、この観察会がこれからも継続し発展し続け、またこの冊子が常にお役に立つことを心より望んでいます。

第6期芦屋市環境づくり推進会議 会長 長井 彦一郎





第6期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

南芦屋浜の自然

平成24年3月31日 発行

発行：芦屋市環境づくり推進会議

(芦屋市都市環境部環境課内)

〒659-8501 芦屋市精道町7番6号

TEL 0797-38-2051

印刷：福田印刷工業株式会社

〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町4丁目6番3号

TEL 078-811-3131

